



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『クローネ(樹冠)を開ける間伐を』

「間伐」

間伐の方法は幾通りかあります。普通間伐と言われている間伐法は、生長が遅れ気味の劣勢木から伐つていくというものです。植栽から10年毎に間伐を繰り返している森林ならこの方法でいいかもしれません。しかし、1000万ヘクタールを超える日本の人工林の、半分以上が手入れが滞っているとされている現在、この普通間伐法では手入れの本丸に

なかなかなかとり着けない気がします。上層木を思い切って伐り、クローネ(樹冠)を大きく開けてあげる樹冠間伐をおこなわないと、間伐の効果が現れないでしょう。今まで適正に間伐がおこなわれていない森林は、上層を形成している優勢木の中にも、根元が曲がっていたり、元玉に瑕があったり、あるいは枝張りが旺盛で隣

接する木々の生長を妨げているいわゆる「暴れ木」などが混じっていることも多々あります。これらを含め、「迷ったら伐る」の選木を行い、大胆に樹冠を開けることができれば、次回間伐までのスパンを10〜15年と、長く取れることもできます。まだ若い森林でしたら、樹冠を開けるためには、島崎先生が提唱された「保残木マーカー法」も有効でしょうし、もっと大胆に機械的に列で

「列状間伐」も省力的な方法といえるでしょう。さて、今回の金曜サロンは「産直市場グリーンファーム」会長、「千の顔を持つ男」ミル・マスカラスには及ばないかもしれませんが、少なくとも多羅尾伴内の七つより多い顔を持つ元伊那市議の小林史磨さんでした。

きたママシヤスズメバチ、イナゴも売っている。昭和初期のよろず屋さん？東南アジアのバザール？いくつかのキーワードに「へっ!!」満載のお話でした。お話が続いて、頼まれれば地球の裏側までそばを打ちに行く、「伊那市そば打ち名人の会」の会長としてのお顔を

見せていただきました。名人の中の親玉が言うことには、「講習会で、先に先にやってしまおう人は割と上達が遅いんですよ」とのこと。講師の話を良く聞いて、基本的に忠実に、という意味でしたら、チェーンソーの技術にも共通するかもしれません。



受け口がうまくできれば伐倒は八割がた成功



島崎先生常備の釣竿を使って、円形プロット

7月13・14日(金・土)
通年コース第七・八回 間伐
8時30分 今回は島崎先生の講師、一時間余、間伐法の説明などしていただく。野田山の現場へは藤沢川沿いの林道が法面の崩落で不通になっているので、手前の猪沢川林道から入る。この林道は悪路だが、軽トラ3台とジムニー3台のコンボイだから何とかなるだろうと出発。
10時30分 現場着。プロット内の選木の後、早速間伐にはいる。



名人の親玉「切り」



「のし」の始まり



「ヘソ出し」でご指導を受ける



「水回し」



かかり木にしてチルホールで牽引

早川 島、平林、松岡、スタツフ/川史磨さん

12時 昼食。食後は間伐再開。

15時 雨がぼつぼつ。少し早いが小屋に戻る。

16時20分 金曜サロン グリーンファーム小林さん「地域の山の資源をどう活用するか」講演

17時40分 そば打ち講習会。塾生を代表して、飯塚さん、金子さん、高橋さんが実践の指導を受ける。三人ともとてもお上手で、名人の親玉の適切な手ほどきもあり、美味しそうなそばが打ちあがる。

19時 雨よけの青シートの下でバーベキューの肉も焼けてきて、暑気払いの宴会に突入。ぐらぐらの湯でゆで冷ゆでたてのそばは日本酒

に良く合う。車で帰らなくちゃいけない方は残念

二日目

8時30分 夜中じゅう雨が降り続き、今日は現場は無理か、と思ったのですが、6時頃小降りになり7時頃止む。悪路の林道を通つてを現場に。今日は一日間伐。平林班はロープやトビなどの手道具でかかり木をはずす。川島班はチルホールを使って強引に引き倒す作戦に出る。

12時 昼食。昨晚は涼しくて、和泉さんの差し入れのスイカにお声がかかったのですが、ひと汗かいた今日は、大層人気。午後中間伐継続。

16時 本日修了。小屋に戻り解散。

参加者/飯塚さん、和泉さん、板山さん、大澤さん、金子さん、小林さん、佐々木さん、高橋さん、藤田さん、湯澤さん、園田さん

講師/島崎先生 特別講師/小林史磨さん

専門コース第一回開催報告 『重心を確実に見極める』

梅雨の最中、7月の初めに今年度の専門コース第一回が開催されました。この時期の三日間、どうしても雨の心配があるのですが、二日目の午後に少し降られた程度でほぼ予定通りの実践をおこなうことができました。

今回ご参加の三人のうち吉柴さんは10年ほど前に集中と専門に参加してください、昨年は再度の集中コースでした。昔の勳を取り戻せられればまあ大丈夫。他のお二人は、チェーンソーはいじったことがある程度とのこと。でもこの三日間で、チェーンソーの扱いに限っては、明日からでもすぐ現場には入れるくらいに上達しました。さて次は、伐倒技術でもっとも肝心なのは安全に、確実に倒す、ということに尽きるかと思えます。そのためには、木の重心の位置を確実に見極めた上で、風向きや集材の方向、避難路などを想定し伐等の方向を決める必要があります。今回は平地林でしたので、重心の位置は、傾斜地に比べて見極め易いのですが、特に水上げが旺盛なこの時期は、枝張りの影響が大きく、その点も要注意



受け、追いの成否を確認する



倒れがかったら避難



矢で重心を移し



毎日のメンテと目立て

です。アカマツは、幹が通直でないだけに、針葉樹のなかでは重心の位置を見極めるに

どちらに傾いているかをしっかりと確認するのがよいでしょう。

重臣の方向が確認できたら、風向き等を勘案し、伐倒方向を決め、どのようにチェーンソーをいれ、どのように倒すか、倒れるかをイメージしてみます。伐倒成功のイメージとともに、失敗し、かかり木になった場合も、どのような道具を用いてそれを解消するかをあらかじめ考えておかなければいけません。

それらすべてのイメージと、実際の伐倒作業が一致したときが、ようやく一人で山に入り、樹木の伐等ができるときです。

そして、左写真のように、自分でひと通りチェーンソーなどの道具類のメンテナンスができることももちろん必要な技能でしょう。

専門コース第一回開催

7月5〜7日(木〜土)

参加者/水谷さん、矢崎さん、吉柴さん

講師/スタッフ/早川、松岡

次回以降の予定

集中コース夏の部

8月3〜5日(金〜日)

森林の現況調査(測樹)から手入れの方針を決め、実際の手入れ(間伐)、そして簡単な集材まで、KOA森林塾の工キスを集めた三日間で、森林施業の流れを一通り体験していただきます。もちろん実際の施業には欠かせないチェーンソーの使い方や、メソナンスも覚えていただきます。締め切りは過ぎましたが、定員に空きがありますので、希望される方はお問い合わせください。

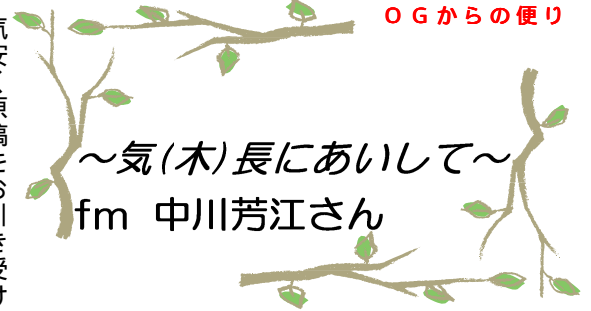
第九・十回

8月24・25日(金・土)

間伐・集材

前回の現場で間伐を継続し、さらに丸太を林道際まで集める集材をおこないます。「ひっぱりだこ」という、ふざけた名前の簡単ウイッチと、藤沢川林道が通れば林業用トラクタを搬入し、それも使った集材もする予定です。8時30分、島崎先生の山小屋に集合。現場は伊那市西春近の野田山です。マイチェーンソー、ヘルメット等あればご持参ください。

OGからの便り



～気(木)長にあいして～
fm 中川芳江さん

気安く原稿をお引き受けしたものの、毎号の通信は歴代のすばらしいOBの方々続きで、早川さん上手にのせられたと苦笑しつつ書き出しております。私は、2007年秋の集中コースでお世話になりました。日頃は、自然環境保全型での地域づくり・実践や社会的事業(ソーシャルビジネス)・創出などの支援を主にしております。野外や自然が好きなのですが、仕事も多いのですが、人と自然の関わり方をいやでも考えさせられる毎日です。そんな中で、森林に関する御縁があり、自分でちゃんと(正しく)木を伐れないとなんだか木に悪いような気がして、兵庫から参加しました。通年コースの全日程に参加できる自信がなく



集中コースで参加しましたが、とても充実した機会でした。自分の山を持ちそこで活かそうというわけではなく、当面は人様のいわゆる里山林での関わりでした。けれど里山林はなかなか手ごわい。関わっておられる方々はよくこ存じの通り、伐ることが技術的に難しいのではなく、「里山」や「里山林」に対して人々が期待する価値が多様だからです。生産というはつきりした目的がある人工林と違って、里山林には単一で評価できる価値基準もありません。

私の住む兵庫県では防災に力を入れていきますので、里山防災林として防災の価値を持たせることもあります。最近では、更に新しい里山林の定義もいろいろ提唱されて、正直なところなんでもありという印象です。そういうきちんと整理して話して下さいます。木を切ると水がどうふるまうのかは科学の話ですが、その木や水に人間が何を期待するのは価値の話です。価値は時代と共にどんどん変わっていきます。反面、木の成長はゆっくりですしそれを支える土壌ができていく時間ときたら数百〜数

森林をどう管理するのが「よい」のかという合意形成はとても難しいものがあります。森林塾で森林施業計画を考える演習の時にも強く思いましたが、木(森林)が育っていく時間はとても長い。人間も長寿命になりましたが、長伐期で考えれば一人分の人生は超えてしまいます。里山林(雑木林)でも人工林でも、長い時間軸で見てもかといとヘンになる、と思ったことは今も変わりません。

森林塾に参加する少し前から、森林と水と人間の関係のことで、私がとてもお世話になっている大学の演習林の先生がおられます。森林水文学(水文学は「すいもんがく」と読み、文系ではなくて理系の学問領域です)をご専門とするこの先生は、いつも科学の議論と価値の議論を

森林塾で森林施業計画を考える演習の時にも強く思いましたが、木(森林)が育っていく時間はとても長い。人間も長寿命になりましたが、長伐期で考えれば一人分の人生は超えてしまいます。里山林(雑木林)でも人工林でも、長い時間軸で見てもかといとヘンになる、と思ったことは今も変わりません。

人間の都合でどんどん変わっていく価値だけを振り回していたら、やおよるの神々に叱られそうです。森林塾で初伐倒した樹齢四十年超のマツに思わず「伐らせて頂いてありがとございます」と思った気持ちと似ています。

千円という長い時間軸です。研究を一緒にしていますが、つくづく、人間が知っていることなんて自然の複雑さに比べればあまりにも限られていて人間なんてちっぽけなんだと痛感します。

早川さんはじめ、皆様ありがとうございました。この原稿を復縁に、今年の冬の炭焼きくらいには参加して、森林「欲」(浴で止まらずに)をもう一度新たにしようと思えます。今後、どうぞよろしくお願ひします。



記念のアカマツ

リレー通信

私の山との関わり
大澤 武雄

「おい、いったぞ!!」

「来た来た!!」

「ハハハ!!」

「入った!!」

「ゲットしたぞ!!」

梅雨の晴れ間の休日山に入り、八子追いをしていきます。

私は生まれも育ちも伊那谷の飯島町七久保という所で、西にはすぐ裏に中央アルプス、東には南アルプス、見回しても山しかないような所です。

子どもの頃は親に連れられ、裏山へ、春には山菜取り、秋にはキノコ採り、20代には、オフロードバイクで林道を駆け回り、30代はジムニーで(オフロードも走れる車)林道ツーリング、溪流釣り



と、休日は時間を見つけては、友達と山に出かけていました。

いまでも春は山菜取り、溪流釣り、夏は八手追い、秋はキノコ採りと、休日は時間があれば山にはいつています。私が森林塾を知ったのは、長野日報の広告覧に掲載されていた、記事を見かけた時です。何だか気になってインターネットで検索し、ホームページの内容を見て、「おもしろそうだな、山仕事習ってみようかな」と思いました。

昨年の10月頃よりどうしようか考えていました。50歳になり、定年という人生の区切りが近くなってきた今、定年後も体が動く内は、出来る仕事と考え、森林塾に入ることを決めました。少しばかり持ち山があるので、手入れが、出来ればと思いついて4月20日、森林塾

初日、やっとしまいいました。遅刻です。

勘違いしてKOAパークへ行っていました。駐車場に行きましたが、それらしき人はだれも

いないので、松岡さんに携帯を入れた所、鳩吹公園と聞き、あわてて向かったのですが、講座の説明が始まる所でした。

早川先生より講座全体の説明があり植林の説明を受け、植林に山へいききました。

植林をし、午後は製材所など林業に関わる所の見学に行き、夜、懇親会がありました。そのなかで、島崎先生のお話があり林業の厳しい現状、現在の山の手入れが入っていない状況など大変貴重なお話をお聞きしました。

次の日は、チェーンソーの講義でした。実際にチェーンソーを使い、伐採、玉切りを行いました。チェーンソーは、持つてはいますが初心者で、玉切り位で10m以上の木を切る事は、ありませんでしたが、基本から教えていただきました

とか1本切る事ができませんでした。木が倒れたときは感動しました。

あれから3カ月が経ち、講座の方は、測量、製図、測樹、施業診断と進みましたが、どうも机上の作業は、頭の中が大分、固くなった私は、苦手で、苦戦いたしました。講師の皆さま、また塾生の仲間への協力もありなんとか、ここまで来れました。

これから3月まで、実習講義とありますが、落ちこぼれないように山仕事を習得し持ち山の手入れはもちろんのこと、出来れば地域の山の保全に貢献できればともっております。

7月に入り、趣味の八手追いに山に入ると、木の事、山の状態が気になるようになっております。

コラム "島さん"の言挙げす

No.4 「頼むぞ!!森林組合」

林業活動の不振が長びく

前号で述べたように年々少なくなるとも1万人余の純増が果たされなければならぬ。わが国における森林施業の主体は、元来森林所有者による自主努力、森林組合あるいは素材生産業者への依託請け負わせに大別されてきたが(森林ボランティアやNPOの活動については別項で)、戦後の歴大な拡大造林地が順次間伐期を迎え始めた1970年頃を境に、農村労働力の2、3次産業への大量流出の時期とも重なって、自家労働並びに受託の組合や業者の労働力も明らかに減少傾向を辿り、昨今では総数で1960年頃の十分の一にも満たなくなっている。

森林組合は、従来親規定である森林法のなかで定められていたが、1978年(昭和53年)同法からはずして単独立法された「森林組合法」によって法的な根拠が与えられている。同法によると「森林組合は森林所有者の協同組織であって、組合員に対する経営指導や森林施業の受託、林産物の生産・販売・加工などをおこない、もって森林所有者の経済的・社会的地位の向上並びに森林の持続培養及び森林生産力の増進を図り、国民経済の発展に資することを目的」としている。

法の趣旨は了とするが、当初に述べたように森林や林業の現状に接していると、そうした理念とはほど遠い厳しい現実が横たわっている。主な理由は、長びく国産材の低迷と森林管理の第一線をつかさどる要員の絶対的な不足(要員20万人に対して現員5万人不足)とに要約されるが、いずれもわが国の社会・経済の現状ともかわってその修復は極めて容易でない。材価の低迷は伐出の収支や立木価格の負値を招いて林家(経営体も含む)の経営意欲を著しく殺ねており、また要員充足の規模は

置つけについては早急に検討しなければならぬ時期が来ていると思われる。なかなかつくほとんど形骸化していると思われる森林組合法のもとに在る森林組合は唯一最大の林業組織であること踏まえ、危機的な状況に曝されているわが国の森林並びに林業の再生に全力投球することを期待したい。なお再生論議はボトムアップ方式であることを願いたい。

おわりに

島崎 洋路

梅雨の最中の7月上旬、静岡県境の飯田市南信濃の山林に踏査に行きました。戻る車の中で、何か首筋からポロリと落ちてきました。よく見ると血を吸って丸々としたヒル。ズボンを取ると足首にも吸われた跡。ヒルのヒルクライムを想像して、「ゾツ!!」と背中が寒くなる。血がなかなか固まらなくて困りました。

アラカンおやじの初体験でした。皆さんもご注意ください。

投稿大歓迎。ご意見ご質問は早川・松岡(事務局)までお気軽にご連絡ください。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

